

## 第3期 平成30年度 新宿区多文化共生まちづくり会議 第1回全体会 議事概要

日 時 平成30年8月21日（火）14:00～16:00

場 所 区役所本庁舎5階 大会議室

出席委員 毛受委員、川村委員、稲葉委員、郭委員、長谷部委員、渡邊委員、余委員、張委員、  
金（相）委員、高委員、丁委員、センブ委員、シュレスタ委員、鈴木委員、バーバー委  
員、金（朋）委員、盛委員、李委員、安藤委員、井上委員、ファトマワティ委員、本多  
委員、森田委員、竹内委員、澤田委員 25名

欠席委員 小野委員、イーイーミン委員、江副委員、梶村委員、平野委員、植木委員、船山委員  
7名

### 1 開会

### 2 新宿区多文化共生まちづくり会議審議結果報告について

#### （1）区長へ報告書提出

#### （2）審議結果報告

##### ア 審議結果の全体報告

審議テーマとしての「住宅」「暮らし」は、外国人支援という視点を超えて、新しく入ってくる外国人にどう向き合うかについて問うものであった。来年4月から新しい在留資格が追加されることから、国内の外国人人口はさらに増加することが予想される。審議結果が、新宿区だけでなく、多文化共生の先進都市の取組みとして、充実していくことを期待している。

##### イ 住宅部会及び暮らし部会からの審議結果・提言内容の報告

###### 住宅部会

住まいは外国人に限らず誰にとっても、安定した生活を送るための基盤となる。部会では部屋を借りる側、貸す側、オーナー、不動産業者等、それぞれの立場や経験から課題を出し合い、国や不動産業界等の既存の支援策を検証しながら、区として行うべき取組みについて議論した。委員のなかに外国人オーナーや不動産業者がおり、貸す側＝日本人、借りる側＝外国人の従来の図式を取り払った状態で議論を進めることができたことは大きな成果である。対象としては新規来日者を想定し、家賃支払いの信用があるにも関わらず、国籍を理由に部屋を借りることができないという問題の解決を目指した。《詳細は報告書のとおり》

## 暮らし部会

流動性が高い外国人住民に対してどのように情報を届けるのか議論していくなかで、言語や文化の違い以前に、コミュニケーションの積み重ねが足りないことが、情報が十分に伝わらない要因であることが指摘された。日頃から言葉を交わせるような関係づくり、コミュニケーションの機会の創出を期待したい。また、既存の情報提供媒体について、内容（表現・イラスト等）から提供方法に至るまでを、受け取る側の視点に立って見直した。区の外国人の多くは若い世代であり、情報収集にスマートフォンを使っていることから、SNSやQRコード、視覚に訴える映像等、より効果的な情報提供が必要である。《詳細は報告書のとおり》

### ウ 意見交換

- ・不動産業界団体には、宅地建物取引業協会の他、全日本不動産協会がある。住宅部会からの提言を受けた取組みは、両方の団体で実施できると良い。
- ・多くの留学生は、来日前に現地で日本語を勉強しているため、日本語学校の現地提携校等の協力を得て、来日前に生活情報を届けたい。
- ・日本語学校のオリエンテーションのなかで、情報提供できると効率的である。
- ・地域行事等を通じて、まちに共に暮らす仲間として外国人と付き合いたい。そうした交流を通じて生活のルールやマナー、日本人について知ることができるのではないかな。
- ・外国人観光客が増えるにつれて違法な民泊も増加しており、ゴミ出しや騒音等、外国人宿泊客のルールやマナー違反について、在住の外国人のものと誤解されるケースが発生している。外国人の印象に繋がる問題なので懸念している。

### (3) 区長あいさつ

2年間にわたり、丁寧なご審議いただき、心から感謝を申し上げます。いただいた報告書をもとに、思いの至っていなかったところ、届いていなかったところ、政策をブラッシュアップして区民が安心して生活していただけるような自治体を目指していきたい。

- 3 各委員からのコメント
- 4 その他
- 5 閉会